

熱のVoice ②

エキスパートチーム編

新宿南エネルギーサービス株式会社

運転技術部

※部を代表して鈴木正義氏にインタビュー



後方左から、佐々木課長、原担当課長、伊藤担当課長、前方左から、古矢課長、佐藤部長、鈴木課長

「5年間でプラント効率14%向上を実現。

効率改善会議とプラント連携でさらなる効率向上を推進」

所属する部署の主な業務内容および目標を教えてください。

鈴木 当社にはJR新宿駅新南口の線路の東西にプラントがあり、運転技術部は両プラントの管理運営をしています。具体的には、運転パターンの策定や、設備改修などが主な業務で、第一に安定供給、第二に高効率な運転を目標として運用しています。

目標を達成するために心掛けていることなどを教えてください。

鈴木 熱の安定供給については、日頃から協力会社や運転員の方々と議論し、設備の小さなトラブルや変化からその「芽」を見つけ、早期対応を心掛けています。それでもトラブルが発生した場合には、原因究明と対策の実施を通して、再発防止に役



プラントで運転員と打ち合わせする鈴木氏

立てます。実際に起きた冷凍機のトラブルの例ですと、現状調査と過去の情報蓄積から原因を推察し、さらに実証実験をして、原因を特定しました。その結果は他の設備にもフィードバックしています。

また、運転の高効率化については、毎月部内で改善案を議論し、その時季ごとの最適なパターンを定め、運用しています。それによって、5年間で14%の効率向上を果たしています。

お仕事のやりがいや喜びを教えてください。

鈴木 多くの人々が利用する新宿駅新南口周辺のビルや商業施設・病院等に365日24時間安定した熱を供給することで地域に貢献しているという喜びがあります。また、効率的な設備運用の追求によって、CO₂排出削減等を実現し、地球環境保全に貢献できているという自負もあります。

現在、当社ではJR・小田急線路

上空に導管を敷設し、東西プラントを接続する一大事業が進行中です。個人的には、こういった新事業に携われる喜びも大きいです。

今後の目標をお聞かせ下さい。

鈴木 プラントは運用開始から20年以上が経過して老朽化が進んでおり、更新工事を計画中です。東西プラントの接続プロジェクトも同様ですが、さらに安全かつ安定した熱供給が可能で、高効率なシステムをつくりあげていくことが今後の目標です。

また、将来的には自動運転化やAI活用等に挑戦し、さらなる省エネ、環境負荷削減を実現することで、地域に貢献していきたいと考えています。

鈴木 正義氏 (Suzuki Masayoshi) 略歴

1999年より別会社にてプラントのオペレーション業務に従事。現場副所長を経て、2014年より新宿南エネルギーサービス(株)。現在、東エネルギーセンター長。運転技術部にてプラントの運営管理を行なう。趣味はサイクリング・登山・ジョギングなど。

(取材：坂上 剛 広報委員)